



川口市立戸塚中学校

46期2学年通信 No.20

令和6年5月7日(火)

## 道徳通信3

# 『みんなでとんだ』で考える最高のクラス

### ○教材について

運動会の学年種目の「大縄とび」で1位を目指して練習していた2年1組は、「縄がこわいと言っていた矢部ちゃんを入れずに跳ぶか、入れて全員で跳ぶかで悩みます。運動会前日の長時間に及ぶ話し合いで賛否両論が出される中、最終的に「みんなでとぶ」ことを選択し、勝ち負けではない本当の友情を得ます。

運動会という行事は生徒にとって身近なものであり、作中に登場する生徒の意見はどれも共感できます。自分も2年1組の生徒になったかのような気持ちで入り込むことができたかと思います。また自分のクラスについて考える時間になるので、今日学んだことを学校生活へ活かして欲しいと思います。

### ○先生から（決して正解ではありません…道徳に正解はないのですから…）

真の友情は、相手が同性であっても異性であっても同様に。相手の成長と幸せを願い、互いに励まし合い協力を惜しまない対等な関係です。中学生の時期は、人と人との触れ合いや協力し合うことの大切さを実感できる一方で、自分本位であったり、排他的になったりする生徒もいます。また、自分が傷つくことを恐れ、他者に対して無批判に同調したり、最初から一定の距離を取った関係しか持たなかったりする生徒も少なくないです。

しかし一方で、互いに心を許し合える友達を真剣に求め、友情を必要とする心が高まってくるときでもあります。自分のことだけでなく、自分の属する集団全体を思いやることで、本当の友情を、そして最高のクラスに必要な「あたたか〜い」をどんどん生み出してほしいです。

自分は今まで最初に感じたことを正しいと思い込んでしまっていたと思った。実際に読んだ当初は「いい話だな」と思ったけど、よくよく考えるとおかしいところがたくさんあって、もしかしたら自分も気づいていないだけで、相手を傷つけてしまっているのではと感じた。

今回の授業を受けて、作中のこのクラスの雰囲気は良くないと思った。作中の人物である金沢さんが何か言わなかったら矢部ちゃんは大縄に参加できていないというのはおかしいと思う。でも、自分だったら金沢さんのようにみんなの前で自分の思ったことは言えないと思った。だから今後は、おかしいと思ったことは言い合えるようなクラスの雰囲気を、みんなで作っていきたい。

先生、生徒合わせて「いいクラス」を作っていくという共通認識が大事だと思った。なぜなら、正解はないけどなるべくクラスで「いいクラス」とはどういうクラスなのかをあらかじめ決めておくのが大切だと思ったからだ。2-6も自分たちがいいクラスだと思うクラスを作っていけたら良いと思う。

作中の人物である矢部ちゃんをそもそも入れずにしていることに何も言わないことがおかしいと感じた。しかし、思っているけれど発言することが得意でない人もいるのではと考えた。そのため僕は思っていることを発言しやすい雰囲気づくりをしていこうと思った。